

日本聖公会
宣教協議会

浜名湖畔に150人が参加

聖公会の宣教と課題を探る

大阪教区常置委員長 司祭 ペテロ 岩城 聰

9月14日(金)から17日(月)まで、浜名湖畔にある研修施設「キャリアック」で、日本聖公会宣教協議会が開催され、約150名が参加した。大韓聖公会の代表3名も来られ、ともに論議に参加された。大阪教区からは、11人が参加した(2名は葬儀のため欠席)。私は、管区の正義と平和委員会の環境問題担当者として参加することになった。

詳しくは、『聖公会新聞』および『教務局だより』に掲載されているので、ここでは、概略を述べるにとどめたい。協議会は、清水靖子シスターの「イエスの道を歩く」と題した特別講演を聞くことから始まった。清水シスターは、福島原子力発電所の事故によっていかに人々のいのちが危険に曝され、生活が脅かされ、社会が寸断され破壊されているかを鋭い言葉で告発された。中でも特に、ご自身が作成された「イエスとともに生きる

祈り」の一節が印象的だった。「イエスの神は、森羅万象と共にある神。生きとし生けるもののなかに受肉され、苦しむものに寄り添って共に苦しむ。脆い神。放射能で汚染された大地で苦しんでおられる沈黙の神。どうぞ、私たちをお赦しください」

引き続き、「いっしょに歩こう！プロジェクト」から、仙台オフィスの責任者である長谷川清純司祭、そして小名浜・郡山の牧師である越山健蔵司祭の、体験を踏まえた切実な報告があり、参加者一同の心にしみ入った。

全体の方向を決定づけたのは、西原廉太司祭の「私たち『宣教』を思い描くためにー日本聖公会の宣教の課題と可能性」という基調講演であった。西原司祭は、世界的な視野から、ウェールズ聖公会、英国聖公会、カナダ聖公会の改革の方針と経験を紹介され、さらに世界聖公会の「宣教の

5つの指標」を踏まえ、教会の5つの要素、①ケリユグマ(み言葉を宣べ伝える)②デアコニア(奉仕)③マルトウリア(この世界に対して福音を具体的に証しする)④レイトウルギア(祈りと礼拝)⑤コイノニア(交わりと共同体)について一つ一つ例を挙げてそれらを統合して理解・

実践することの重要性を説かれた。最終文書である『日本聖公会(宣教・牧会の10年)の提言』もその提起に基づいてまとめられた(近く、正式なものとして発表が予定されている)。

今回の宣教協議会は、1995年の前回宣教協議会と異なり、それぞれのグループでの徹底的なディスカッションを積み上げ、その中から課題を抽出するという方法をとった。「提言」がそれらの論議と各自の思いを最大限反映したものとすることを祈るものである。

(いわき あきら・川口基督教会司牧師、大阪聖ペテロ教会管理牧師)

日本聖公会
宣教協議会

日々の祈りと希望

周りに伝えよう

エステル 畑野 希美



信仰と熱意をもった信徒約150人が全国

から集まり、「いのち、尊厳限らないもの」ー宣教する共同体のありようを求めてーというテーマにふさわしく、いのちについて、宣教について、私たち聖公会という共同体について深く真剣に考える日々でした。

講演とバイブルシェアリングを挟んで、それぞれが10人弱のグループに分かれて、各自の考えや教区の問題を分かち合いました。その時間の中で、「キリスト教が私たちひとりひとりの生きる糧となっているか」という大事な視点に気づかされました。教会の中でも外でも祈る機会が日常的に与えられ、主に感謝することができると実感した時、本当に希望で満たされていると感じることができました。「宣教」って何なんだろう...と考えた時、何か特別なことをするのはなくても、この日々の祈りを通して、今教会に連なっている私たちひ

たりひとりがキリストによって希望で満たされているということをかち合い、周りに伝えていくことがその答えの一つではないかと思えます。他にも「教会に初めて来た人が、3人以上の人から声をかけられると再び教会に来てくれる」という統計が紹介され、ぜひ実践していきたいと思えました。

この4日間で受けたたくさんのお恵みに感謝し、今回青年として参加させていただいた私たちが10年後、20年後の聖公会に向けてどんなに小さな働きでも感謝して続けていけたらと思います。

(はたの のぞみ・大阪聖三一教会信徒)

台風17号で教区礼拝は中止

清心館に集った200余人で礼拝守る

今年の大阪教区の教区礼拝は9月30日(日)に挙行のところ、台風17号接近のため急遽中止となり、各教会で礼拝を持つことになった。教区としては、人命に対する万一の危険を予想したためだが、教区礼拝が行われるプール学院清心館に信徒の方々が来られることを想定し、大西修主



教、式典長・岩城聰司祭、オルガニスト、その他幾人かのメンバーが待機したところ、約200人を超える会衆が集い、この日の主日の礼拝は、臨時の教区礼拝の形となった。礼拝は予定通りの式次第で進行、東北教区の長谷川清純司祭は東日本大震災に関わる思いを切々と説教された(要旨は付録に掲載)。

陪餐中の賛美には各教会の聖歌隊を始め、桃山中学聖歌隊、プール学院中高生、プール学院大学、プールのシンガーズが参加する予定だったが、学生・生徒の皆さんは大事をとってキャンセルとなった。

また子どもたちの「キッズ聖歌隊」は少数ながら「ヤッター(Yatta)」を元気に歌い、幼い子どもたちの信仰の継承を体現してくれた。

この日の信施は157,959円で、福島県の小名

浜聖テモテ教会・聖テモテ幼稚園のために献げられた。礼拝前はまだ雨も降らず、穏やかな空模様だったが、礼拝が終わった正午過ぎには風

と雨が次第に強くなり、会衆は早々に散会、家路を急いだ。チェルノブイリから考える」は、後日に行われる予定。(編集部)

なお、同日午後後の講演会、河田昌東さん(NPO法人

大阪教区各教会牧師・教役者・信徒のみなさん

主の平和がありますように
去る9月30日には、台風接近による「暴風警報」発令のため、信徒・教役者の皆様にはどうすればよいか、迷われた方が多かったことと拝察します。

8月1日付の教区礼拝の案内(第一報)には、次のような一文が記載されていました。

「当日前7時のニュースで大阪地方に暴風警報または大雨洪水警報が出れば教区礼拝を中止といたします。その場合、各教会で礼拝をささげます」

教区として人命に対する危険が予想される場合に、きちんとした責任をとるといふ考えからの方針でした。従って、当日も基本線としてはその案内に従うことと

し、「教区礼拝は朝7時の段階で警報発令の場合は中止とする」旨ご案内いたしました。ただし、教区礼拝を中止としても、連絡が間に合わず当日プール学院に来られる方もおられるのではないかと予測し、主教と長谷川司祭(説教者)、式典長(岩城)、数人の教役者、オルガニスト、その他の奉仕者が待機いたしました。その結果、約200人の方々が警報の中をプール学院清心館に集まり、聖餐式を守ることができました。当日、危険が増す中で、礼拝に集まれた方には、心から感謝いたします。

また、当初の方針通り、各教会で公禱を守られたところ

2012年大阪教区礼拝式典長

司祭 ペテロ 岩城 聰

もあり、それもまた素晴らしいことであったと思います。いずれの礼拝にも、主は大きな恵みをお与えくださったと感謝いたします。また、大阪教区の全ての教役者・信徒の方々に心から感謝申し上げます。結果として清心館での礼拝が行われたことに対して、その後信徒の方から「当初の方針通りではない」「あるんだっただ行ったら良かった」とお叱りを受けることもあり、式典長として連絡不行き届きをお詫び申し上げます。事情をご賢察の上、ご寛恕くださいますようお願い申し上げます。主に感謝します。

東日本大震災救援募金感謝報告と 今後の支援活動について

主教 サムエル 大西 修

テ教会牧師館に常住して、福 れます。教区としては木村司

島原発から避難してきて、いわき市内2カ所にある仮設住宅に住む人々に対する救援諸活動に關わっております。

祭の要請にこたえて支援活動を続けてまいります。現在は現地の「ほっこりカフェ」に手作りのパウンドケーキとマドレーヌが送られており、大変喜ばれています。これは教区婦人会の呼びかけで各教会の婦人会も協力してなされているものです。

引き続き、お祈りのうちに東日本大震災をお覚えください。

また、東北教区主教座聖堂 仙台基督教会、牧師館、東北教区会館建設のために、各教会の献金と合わせて150万円をお送りいたしました。感謝してご報告いたします。

聖テモテ・ボランティアセンター 第2期へ

司祭 ヨハネ 木村 幸夫

既にご報告させていただきました通り、右記救援募金は7月31日をもって終了いたしました。1年間にわたる皆様の熱いお祈りとご支援により、目標額5,000万円を突破し、総額57,609,734円になりました。改めて心から御礼申し上げます。これまでに教区として救援活動のため使用した費用と来年5月までの活動費(合わせて約700万円)を除いた50,396,451円を管区事務所に送金いたしました(9月26日付の第8回送金13,660,368円が最終送金分)。

7月からは、昨年度の日立について小名浜聖テモテ・ボランティアセンターの働きのため、大阪教区から現地調整者として木村幸夫司祭を派遣しております。同司祭は来年5月31日まで、小名浜聖テモ



聖テモテ・ボランティアセンター第2期開所式

2011年7月より京阪神3教区 東日本大震災救援協働の働きは新しい段階に入りました。今までの各地よりのボランティア参加者による活動ではなく、現地の働き手に委ねていく方向に歩み出しました。従いましてボランティアの募集はしておりません。現地は主として木村司祭が現地調整者として来年5月末まで、現地の方々とともに働きます。毎月第2週は神戸教区と京都教区から応援要員が隔月に派遣されます。

主たる働きは毎週木曜日・土曜日はいわき市渡辺町屋野

の応急仮設住宅団地(70数戸住民は大熊町民)で、また月曜日と金曜日はいわき市泉町玉露にある応急仮設住宅団地(240戸・住民は富岡町民)で「ほっとカフェ」を開催。住民相互のコミュニケーション広場を提供しています。両方とも現地の同盟キリスト教団の二つの教会が協力していっしょに働きます。また、泉の方はボランティアグループが2組編成されて、住民の手によって準備やサービスが提供されています。カフェの材料はこちらからの提供です。夏前から大阪教区婦人会が積極的に協賛くださり、カフェで提供されるお菓子を送ってください、大変助かっております。それぞれ心を込めて焼いてくださったお菓子はカフェ

に集う人々の心を潤しています。紙面を借りて、教区婦人会の皆様、各教会婦人会、女性会の皆様に感謝申し上げます。大熊町、富岡町ともに福島原子力発電所の事故のために強制的に避難させられた人々で、いつ帰還できるかも知れない不安の中で日々を過ごしています。

今後の課題は来年5月末までに、小名浜聖テモテ教会、北関東教区などの近隣の方々に当センターの働きをいかに継承していくかです。日本聖公会の「いっしょに歩こう! プロジェクト」の歩みと歩調を合わせながら、考えなければならぬ課題です。

(きむら ゆきお・小名浜聖テモテ・ボランティアセンター現地調整者)

主と共にあゆむ 22 (最終回)



キッズキャンプに参加して

マリア 藤間 愛美

私は、小学4年生です。赤ちゃんのときに、内田先生から洗礼を受けました。そのとき、聖ルシヤ教会は30周年の記念の年だったそうです。そ

して、2年前に今6年生のお姉ちゃんと一緒に大西先生から堅信を受けました。聖ルシヤの礼拝では、聖書朗読もします。そして、主の

平和の時は、礼拝堂を回ってみんなと握手します。ちょっと、はざかしいけど、みんなにこにこして握手してくれるので、嬉しいです。

8月20日から22日まで、わいわい村のキッズキャンプに参加しました。去年に続いて2回目です。1年ぶりに会ったのに、スタッフの人たちが名前を覚えてくれていて嬉しかったです。お祈りをして、聖歌を歌い、自己紹介をしました。齋藤先生が、子供の頃のお話と、どうして司祭様になったのかを話してくれました。そして、テントを張って、名札作りをしたり、キャンプ場を回った

り、夜にはキャンプファイアをしました。2日目は、川で魚をつかまえたたり、歩いたりして遊びました。そして、夜はキャンプファイアです。3日目は、起きてすぐに、寝袋をたたんでテントを片付けました。どれも、みんな楽しかったです。来年もまた行きたいです。そして、他の教会のお友達とも仲良くなりたいと思いました。(とうま まなみ・聖ルシヤ教会信徒)

宣教協議会



今夏二つの宣教協議会が開催されました。

一つは7月(1泊2日)に教区レベルで行われ、もう一つは9月(3泊4日)に管区レベルで行われました。名称だけを聞くといかにも厳めしく、「宣教協議会」って一体何なの? 自分には関係のない集まりみたい、そのように思われた方も

いらつしやるかもしれません。それは決して難しい会ではありません。とても大切な、今日における教会の具体的な働きを一層豊かにするために、わたしたちはどのようにしていけばよいのかを共に考え、知恵を出し合い、一歩前進する決意をするために集いました。この会にはほとんど

の教会から若い人を含め、数名ずつが参加し、自分の所属している教会で、また他の教会と協働して、これからどのようなことをしていけば、喜びを持って人々に伝え、人々に主を証しし、信仰生活を送っていけるだろうかと話合い、小さなことでも良いから出来ることをやってみようという希望を持って散会しました。

管区の宣教協議会には全教区からの信徒・教役者・全主教、管区の諸委員、実行委員を含め140余名が集まりました。ここでは基調講演、原発問題についての講演や報告を通して、神から与えられている「いのち」の尊厳について、もう一度、主イエス・キリストがこの世に来られたこと、すなわち福音の原点に返って問い直すことを再確認し、次回にわたるグループ討議によってそれを深めました。聖公会新聞9・10(合併)月号の報告と、近々この協議会のまとめ「日本聖公会(宣教・牧会の10年)の提言」が公表されますので、是非読んでください。(主教 サムエル大西修)

大阪教区 サーバー研修会

日時: 2012年11月17日(土) 午後1時30分~午後4時
場所: 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)
持ち物: 祈祷書、筆記用具、式服(お持ちの方だけ)
問合せ: 堺聖テモテ教会 TEL 072-261-2015 内田望司祭まで

各教会でサーバーの奉仕をされている方、信徒奉事者の方、その他サーバーの奉仕に関心のある方はどなたでもご参加ください。

共催: 大阪教区宣教部 礼拝・音楽委員会、主教座聖堂参事会



京都教区との協働を目指して

聖職と教会紹介 12

京都西陣で宣教して100年

司祭 ヨハネ 石塚 秀司

京都市北区北大路堀川の交差点に京都復活教会はあります。西陣地区で宣教活動が始まってから今年で98年、間もなく100周年を迎えます。

礼拝堂の建物はヴォーリズ的设计です。現在受聖餐者は124名。主日礼拝の出席者数は40名、50名台で推移してい



京都復活教会

ます。

礼拝の始まりを告げる鐘楼の鐘の音は、ヨーロッパの大聖堂の響きにどこか似ています。礼拝後は復活名物の「うどん屋さん」が毎週オープン。うどんを食べながら話に花が咲きます。復活教会の大切なコミュニケーションの場となっています。

復活幼稚園は今年創立80周年を迎えました。園児数は60名。聖公会の幼稚園が展開してきた伝統的な幼児教育を大切にしている幼稚園です。

親が仕事を休めず、夏休みになってもどこにも連れて行ってもらえない西陣の子どものために臨海学校が始められ、それが後に琵琶湖畔の北小松研修所へと発展してい

きました。ここで多くの青少年が育ちました。夏のオープン期間中毎年千人前後の人たちにご利用いただいています。信徒の有志の方による「しようがい」放課後クラブ「コグ」の活動が始まって2年が経ちました。毎週水曜日午後3時から活動しています。10



ワイリアムス神学館を97年

4月に卒業し、教会勤務に就いてから16年目になりました。大学職員と幼稚園教諭を経て三つ目の職業ですが、一番長い仕事となりました。

奈良基督教会、大津聖マリ

人程の子どもたちが通っています。教会が「しようがい」を持った子どもたちやボランティアの皆さんの「居場所」となれば嬉しいです。

最後になりましたが、今年4月に私石塚が牧師として赴任いたしました。来年還暦を迎えますが、京都復活教会の皆さんと共に神様のみ心がなるようにと歩んでまいりたいと思っています。

(いしづか しゅうじ・京都復活教会牧師)

司祭 セオドラ 池本 則子

ア教会、桑名エピファニー教会と四日市聖アンデレ教会兼務を歴任し、この4月より、橋本基督教会・笠田基督教会・五條聖三一教会に遣わされています。

明治18年、紀の川沿いに伝道旅行をしたチング師によって橋本の宣教が開始され、橋本基督教会が設立されました。さらに明治43年、橋本の講義所を笠田に開設、大正12年に

笠田基督教会が設立されました。五條聖三一教会は明治15年、元田作之進氏らによって宣教が開始されました。

3教会はJR和歌山線が通らないでいます。橋本駅から笠田駅は西へ20分弱、五條駅は東へ15分弱です。信徒数が少ないため、笠田基督教会での主日聖餐式は月1回(橋本基督教会と五條聖三一教会は合同で朝の礼拝)、あとの主日は橋本基督教会で3教会合同の聖餐式を行っています。五條聖三一教会は、主日は橋本基督教会との合同で、月1回土曜日に五條聖三一教会で聖餐式を行っています。

笠田基督教会には聖心幼稚園があり、園長として橋本基督教会の牧師館から毎日通勤しています。幼稚園教諭の経験から園児たちとの触れ合いは懐かしく、元気が与えられます。昼食は毎日保育室で園児たちと一緒に食べています。が、あとは職員室で事務に専念しています。

(いけもと のりこ・橋本基督教会および笠田基督教会 牧師、五條聖三一教会管理 牧師)

2012年度 教会奉仕者および聖職への道セミナー 一人ひとり、痛みを通して、神との交わりを豊かに

司祭 アンデレ 磯 晴久

去る8月28日(火)〜30日(木)、宇治カルメル会聖テレジア修道院にて、京都教区・大阪教区聖職養成委員会共催2012年度「教会奉仕者および聖職への道セミナー」が開催された。

参加者は両教区主教・スタッフ・部分参加者も含めて、大阪教区13人、京都教区11人で、講師は谷昌二・前沖縄教区主教と岩城聰司祭(川口基

督教会牧師)をお願いした。1日目は、「お互いを知り、わかちあう」から始まり、夜には岩城聰司祭から「聖職への道」と題してお話を伺った。岩城司祭は、ご自身の歩みを通して、神との出会いと呼びかけ、内なる傲慢さへの気づきから謙虚さへと導かれたこと、そして挫折や試練を乗り越えて聖職へと召し出されたことについて語られ、参加者は大きな励ましを受けた。

うという形式で行われた。基本は「聴く」と「尋ねる」ことで、徐々に「謙遜」になって「今の私の悩みに、恐れず向き合う」ことが大切にされていく。紙面の都合上、詳しく

成岡宏晃神学生を囲む会報告

ガブリエル 小野田芳大

まだまだ厳しい暑さの残る8月26日(日)午後、大阪聖アンデレ教会で「神学生を囲む会」が開かれました。各教会から113名が集

くはお伝えできないが、私自身観想祈禱を是非経験したいと強く感じた。セミナーのまとめとして各自の実りを分かち合い、聖餐式を守り、それぞれの場合へと派遣されて散会となった。こうしたセミナーに一人でも多くの方が参加して下さることを祈りつつ、報告とさせていただきます。(いそ はるひさ・聖職養成委員長)



またまだ厳しい暑さの残る8月26日(日)午後、大阪聖アンデレ教会で「神学生を囲む会」が開かれました。各教会から113名が集まりました。小学生から幅広い年代の方々、聖職者も多数来られました。義平雅夫聖職候補生の司会・進行で始まり、開会聖歌、古澤秀利執事の開会のお祈りの後、出身教会である

神学校の入学式の写真では、全国から神学生が集まっています。全国から支えられているのだと実感する写真が多くありました。全寮制である神学校の全景、各



施設、教室、図書館、授業風景、食堂、談話室、成岡神学生の寮の自室、普段の様子等の紹介がありました。現在は神学校・寮ともに学生が少なく残念に思いました。大勢の人が興味深く見入っていました。卒業生の先生方は懐かしい様子でした。次に青年達からのインタビューコーナーがあり、教区の青年達からも全国の青年達からも親しみを込めて「なるさん」と呼ばれていること、丸刈りのヘアースタイルはバスケットボールで負けた時から始めたこと、愛唱聖歌が308番であること等、その人となりの一端を垣間見ることが出来たように感じました。続いて大西修主教から神学生後援会のメッセージが伝えられ、聖歌、主の祈りと祝福をもって閉会となりました。集められた席上献金(神学生を支えるため)は88,832円でした。和気藹々とした中で、一回り身も心も大きくなった成岡神学生を皆で囲み、神様に感謝とお導きをお祈りするときを持ちました。(おのだ よしひろ・大阪聖アンデレ教会信徒)



交流会で挨拶する青年たち

切な提言は、「今回の宣教協議会は、少し規模の大きな研修会、修養会で終わってはならない。私たちの日本聖公会の、少なくともこれからの10年の方向性を導く何かしらの（道しるべ）を、私たち一人ひとりがそれぞれの場へと持ちかえる」という言葉であったと確信しています。青年の枠で参加させていただき、日本中に広がる聖公会の同世代



2012年日本聖公会宣教協議会の最も大

日本聖公会
宣教協議会

聖公会の「これから」に 未知の可能性を実感

聖公会神学院 フランチェスコ 成岡 宏晃

の仲間たちともたくさん時間を過ごしました。これからの10年の方向性を導く。10年後の自分たちは一体どうなっているのか。どうなっているのかではなく、「今」何をやるのかということ。

まだまだ日本聖公会の「これから」には、未知の可能性が秘められていることを強く実感しました。またこの10年間は、私たち一人ひとりが信仰の原点に立ち返り、「今」をどのように捉え、教区として教会として、一人のキリスト者として、等しく与えられた尊い命を懸命に生きようとする一人の人間として、誰とどこで、どのようにして、「いっしょに歩いていく」のかということと向き合いながら、実践を重ねていく10年になると感じました。そして、これこそが「宣教」であると信じています。
宣教協議会開催のために労を担ってくださったお一人お

大阪教区 青少年キャンプを終えて

2012年度大阪教区青少年キャンプ

ヨハネ 永井 啓



今年のキャンプ（8月20日〜22日）は去年より多くの参加者が集まりました。キャン

プに参加出来る最初の学年である小学3年生の子も多く、とても賑やかなものになりました。初日のオリエンテーションでは、みんなでキャンプ場を回るスタンプリーパー形式のものをし、綱引きといった運動から、楽しいミニゲームまで盛り沢山。キャンプファイアーは2時間に渡る長丁場で、体を使ったゲームが多く、大人もクタクタになるまで楽しみました。クラフトの軍手を使った人形作りでは、夜の劇へ向けて思い思いに個性的な人形を作っていく。みんな夢中で時間ギリギリまで使った作った人形達はどれも力作で、並べて見ると壮観でした。

一人、参加を後押しして下さった教区の皆さま、また祈りによってお支えくださった方々と、いつも共にいてくださる神さまに心から感謝を申し上げます。
（なるおか ひろあき・聖公会神学院在学中）

た。自由時間では、毎年恒例の川遊び。水かけあいをしたり、魚をとったり、虫をとったりと、キャンプならではの自然を精一杯楽しみました。最後はフォトカードを作り、写真を中央にお互いメッセージを書き入れました。

今年のキャンプは全体を通して、子どもたちがプログラムに参加し、みんなで作り上げたキャンプでした。全員が、大きな家族になったような温かい一体感は、教会のキャンプならではのものです。幸い誰も怪我をすることもなく、子どもたちはもちろん、リーダー、スタッフ全員が一つになれた最高のキャンプでした。
このような場を与えてくださったことを、感謝申し上げます。
大阪教区全体の子どもが参加できることを願っています。これからも、子どもたち、青年たちの大切な居場所である青少年キャンプをお見守りください。
（ながい けい・高槻聖マリヤ教会信徒）

全国青年大会に参加して

リタ 尾崎 華

8月23日から26日まで、宮城県仙台市で日本聖公会全国青年大会が行われました。

4年に1度しか行われぬこの行事に、今の時期に参加できたことをとても嬉しく思います。

今回の青年大会は宮城県で行われたということもあり、東日本大震災についての学び



宮城 荒浜での祈り

がたくさんありました。それは私が参加を決めた理由の一つでもあります。

「いっしょに歩こう！プロジェクト」での取り組みや、今私たちにできること、そして原子力発電所についてお話をしていたきました。特に原発については日頃気にはな

っていても自力で理解するのはなかなか難しいのですが、わかりやすくお話をいただけるととても勉強になりました。

そして3日目には石巻、新地、南三陸の3つのコースから行き先を選び、被災地巡りにも行きました。被災された方からお話も聞き、本当は忘れてしまいたいくらい悲しいことなのに、私たちのために思い出してお話してくださいましたことに本当に感謝しています。

今私にできることは、この被災地の現状を持

ち帰り伝えていくということだと思いい、たくさん写真を撮らせていただきました。

大阪にいたと、1年以上経った今では震災について考えることが少なくなりつつあります。風化というのはとても悲しいことです。

被災地の現状を伝える、と簡単に書きましたが、それはとても難しいことだと今改めて実感しています。私と同年代の者は特に震災に対する関心が薄くなっています。

そのような観点からも、今回青年で集まることのできたのはいい機会になりました。たくさんの方と知り合いになれたので、これからも色々な話をしていきたいです。

最後になりましたが、青年大会に参加するにあたって援助してくださった教区、教会の皆さん、準備してくださった委員の皆さんに感謝しています。

そして素晴らしい恵みを授けてくださった神様に何より感謝いたします。
(おさき はな・尾崎聖ステパノ教会信徒)

広島平和礼拝に参加して

執事 アンデレ 田宮 紘

幼少の頃に見た「原爆の子」という映画の強烈な印象から

でしょうか、広島に行くのは恐ろしくて避けてきた気がします。

息子や娘を連れて訪問したかったのですが、それも実現しませんでした。今回(8月5日～6日)、初めての広島訪問で原爆資料館をていねいに見て回りました、どの資料も被爆後67年も経つとテレビ、雑誌等で間接的に何回か見たものでした(例えば、火傷した背中が分厚い炭のようになった子供の写真、人が居たところだけ元のまま黒く残



った銀行の大理石の階段です)。

広島復活教会と神戸教区は、被爆体験を過去のものにしな

いたための取り組みを粘り強く実行していました。高齢になった経験者の話と共に、若い世代の人が原爆資料のガイドや平和公園ガイドとして未来に向けて平和を語り継ぐ役割を果たそうとしていることに感動しました。

広島平和礼拝はそのために行われています。

平和礼拝の後で、毎年お願

いしているというよく準備されたベテランガイドによる通信病院資料室や広島城跡に残る当時の司令部の見学も興味深いものでした。

原爆は、戦争になったときに原爆を造るためにも存在することはよく言われてきました。平和礼拝の説教でも原爆再稼働に際してその必要性を原爆製造と関連して主張した保守党のクリスチャン議員がいるとの話がありました。

原爆事故の放射能を被曝した
(次ページ最下段につづく)

ずっと夢見ていたこと

「東日本大震災復興支援料理本」出版に当たって

アグネス 高橋 敏子

東北支援のボランティアに行くと、全国の方々と出会える楽しみがあります。その時

も関東の女性の方と出会いました。色々話をしているうちに、友人の息子さんのお義母さんでした。大阪に戻り友人にこの話をしました。友人は新聞社を早期退職し、出版社を立ちあげたばかりで、若い時から料理本を出すことを夢見ていたことを話すと、すぐに出版となりました。東北の出会いから始まったこの出版話は、私の人生にずっと前から計画されていたことのように、東北のことを風化させ

ないためにも是非出版したいと思いました。

昨年、案内してもらった平聖ミカエル教会は、うっ蒼とした樹木の中にひっそりと佇む静かな聖地でした。小さな十字架のステンドグラス、低いデザイン建物と樺の大木とのバランスに、私はすっかりとりこになりました。そして、この教会で、教会暦に基づき伝統のお菓子の写真を撮らせていただきました。ほんとうに感謝でいっぱいです。(たかはし としこ・高槻聖マリヤ教会信徒)



★高橋敏子著『おいしい時間をあなたと ころころコレクション1 日中英対照メニュー』かんよう出版(本体価格1700円+税)より11月上旬発行予定。一般書店やキリスト教書店でお買い求めいただけます。店頭がない場合は注文も可。お問い合わせは、ころころ 06-6388-7127 へ。

世界の窓

◎カンタベリー大主教、ユダヤ人共同体へ最後の挨拶を

ユダヤの新年とされるロシユ・ハシヤナの機会に、カンタベリー大主教ローワン・ウィリアムズ博士がユダヤ人共同体へ挨拶状を送った。年末の辞任がすでに決まっているため、カンタベリー大主教として送る最後のメッセージとなる。メッセージはキリスト教とユダヤ人共同の過去10年以上の関係を振り返りつつ、豊かな対話を共に持てたことを神に感謝しているというものである。

(ACNS - Digest News: September 14, 2012)

◎エリザベス女王即位60周年の大祝祭

9月24日、バッキンガム宮殿にダイヤモンド・ヨベルと称されるエリザベス女王即位60周年を祝う感謝状が送られた。この感謝状は英国教会と「HOPE」が協働し、1年をかけて教会内外を含めイギリス全土から何千人もの感謝の署名を集めたものである。

「HOPE」とは神と地域コミュニティのために、教派や組織を超えて様々な活動を呼びかける団体で、今回のダイヤモンド・ヨベルにおいても英国教会をはじめ、様々な教団教派、学校などにも活動と呼びかけ、多大な貢献をしている。

教区の様子

常置委員会報告

9月19日(第10回定例会)

I. 主教報告

*九州教区後継主教按手式(主教被選者・司祭ルカ武藤謙一) 12月1日(土)
主教就任式 2013年4月6日(土)
いずれも九州教区主教座聖堂にて

*9/4、6 管区共通聖職試験が行われ、林正樹執事が受験した。

*10/6(土)〜8(月) 第57回GFS全国研修会 於

(前ページよりつづく)
人が、広島で被爆した人のように白血病や癌などの病気に至らないようにと願います。(たみや ひろし・釜ヶ崎宣教担当)

(ACNS - Digest News: September 25, 2012)

聖贖主教会・博愛社

*10/7(日)〜8(月) 中部教区創立100周年記念式典 大西主教出席

*10/25(木)〜27(土) 日本聖公会社会福祉連盟第53回大会・研修会 於小布施・新生病院

*11/3(土) 庄内キリスト教会創立50周年記念礼拝

II. 協議事項

*第108(定期)教区会に関する件

2012年9月21日 公示
日時 2012年11月23日 (金・祝)
於 川口基督教会

公 示

日本聖公会大阪教区第108(定期)教区会を、
下記のように召集します。

救主降生 2012年10月7日
日本聖公会大阪教区
教区会議長 主教 サムエル 大西 修

記

- 会 期 2012年11月23日(金/休)
午前9時(開会聖餐式)から午後5時まで
- 議 場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂 会館(川口基督教会)
大阪市西区川口1丁目3番8号

書記および会計を下記のように指名します。

- 書 記 司 祭 テモチ 内田 望
- 執 事 ジョイ 千松清美
- 会 計 司 祭 ヨシュア 原田光雄
- ペテロ 米虫克次

公 示

救主降生 2012年10月7日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

神のお許しがあれば、聖職按手式を下記のとおり執行し、
執事 ジョージ林 正樹を公会の司祭に叙任いたします。
諸教会における代禱、及び主にある兄弟姉妹のご臨証を
お願いいたします。

記

- ◇日 時 救主降生 2012年12月8日
(降臨節第1主日後土曜日)
午前10時30分
- ◇式 場 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)
大阪市西区川口1-3-8
- ◇司式者 主教 サムエル 大西 修
- ◇説教者 司祭 ダニエル 山野上素光
- ◇式典長 司祭 ペテロ 岩城 聡
- ◇祭 色 赤を用います。

公 示

救主降生 2012年7月18日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

2012年8月1日付で、以下の人事を発令します。

司祭 ヨハネ 成田 邦雄
願いにより、庄内キリスト教会、芦屋聖マルコ教会
及び西宮聖ペテロ教会における囑託としての勤務を
解く。

書記 内田 望司祭、千松
清美執事

*2013年度一般会計予算
案に関する件
*教区館・主教住宅の外装工
事発注先に関する件
以上



○石橋聖トマス教会

パウロ 森内 幸春
(7月15日)

○川口基督教会

ミリアム 小林真以子
(8月5日)

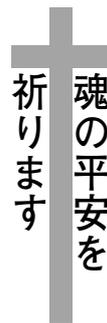


○川口基督教会

ミリアム 小林真以子
(8月5日)

○高槻聖マリヤ教会

ミカエル 坂口遼太郎
ヨハネ 永井 啓
ノア 武田 智哉
(8月26日)



魂の平安を
祈ります

○大阪聖パウロ教会

ルツ 高羽 寧子
(8月14日・91歳)

○川口基督教会

マツテヤ 木下 勝
(8月19日・73歳)

○石橋聖トマス教会

イサク 今西 政弘
(8月21日・84歳)

○東豊中聖ミカエル教

マルコ 孟 肇謙
(8月24日・79歳)

○大阪聖パウロ教会

パウロ 池田無事郎
(9月2日・76歳)

○芦屋聖マルコ教会

サラ 志賀 あい
(9月6日・93歳)

○聖贖主教会

エリサベツ 小寺みどり
(9月14日・99歳)

○大阪聖三一教会

ミリアム 永井 静子
(9月24日・94歳)

教会・施設の動き

庄内キリスト教会

○11月3日(祝) 午前11時よ
り創立50周年記念礼拝と祝
会を行う。

尼崎聖ステパノ教会

○8月26日(日) 12時~15時、
ステパノ祭りが行われ、近
隣の方も共に食事を楽しま
しました。9月16日(日) 敬
老感謝礼拝の中で、76歳以
上の方をお祝いしました。

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 11月14日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ヨハネ 山根貞夫司祭

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940 英)

◇ 12月12日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ヨハネ 鍋島守一司祭

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930 英)
- 2日 主 教 チャイニング・モア・ウイリアムス (1910 米)
- 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
- 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
- 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926 英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 司 祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八束 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

* 教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご出席ください。なお、昼食の準備はなく、茶菓のみの提供となります。

聖贖主教会

- 10月21日 (日) 9時半 ~ 15時、博愛社カーニバル
- 11月3日 (祝) 10時 ~ 14時、いのちの電話バザー

石橋聖トマス教会

- 8月19日 (日)、豊中3教会 (トマス、ミカエル、庄内) 教会委員合同懇談会を開催。
- 11月11日 (日) 12時半から、手作りミニバザーを行います。収益は礼拝堂建て替えのため。

桃山学院大学

- 10月31日 (水) 午後1時30分から、日本で最も有名なクリスチャンシンガーの一人である森祐理さんをお招きして、第109回チャペルコンサート開催致します。入場無料です。なお、定員は250人となっております。定員を超えた場合は入場できませんので予めご了承ください。
- 11月2日 (金) 午後3時からキリスト教講演会を開催いたします。講師は中部教

区司祭、立教大学教授の西原廉太郎です。こちらも入場無料ですので、奮ってご参加ください。

教区報第426号訂正

※ 8月5日発行の教区報第426号の訂正は次の通りです。
 11頁1段目「公示」
 (誤) 主教 アンデレ 大西 修
 (正) 主教 サムエル 大西 修

編集後記

実りの秋を迎えました。教区報第427号を順調にお届けできますことを感謝します。今回よりお知らせの通り頒布価格を改訂いたしました。発行部数を維持できますように重ねてご協力お願いいたします。
 連載(主と共に歩む)も今回をもちまして終了いたします。新年より新たな連載企画を検討中です。ご期待ください。
 (広報委員会一同)

次号・第428号 発行予定
 12月23日(日) 降臨節第4主日
 クリスマス号



プール学院清心館での
長谷川清純司祭(東北教区)の説教

東北の被災地を走り回り
「目から鱗」の
体験重ねる

私は昨年3月11日の「東日本大震災」後の24日、加藤博道・東北教区主教様によって、秋田聖救主教会から仙台に招集され、「東北教区災害対策本部付」になりました。その日から被災地をがむしゃらに走り回りました。各地のニーズを聞き出しては、食料を始め緊急支援物資を運び込み(大阪からもトラックが新地町に来ました)、信徒から、そしてその周囲におられた被災されたすべての人たちと話

し、泣き、手を握り合いました。今にして思うと、あんなに働いたのは、牧師として初めてだと思います。この間、私は「目から鱗が落ちる」感覚と体験を重ねました。そしてイエス様のお言葉は、まさにこういうことなのかと実感したのです。

私を背負うイエス様の足跡

5月6日に、「いっしょに歩こう!プロジェクト」がスタートし、それに先立つ4月に管区の委員たちが仙台の教区会館に集り、日本聖公会がどういふ組織と方針をもって、この非常事態に対処していくか検討されました。

私はそれまで約1か月間の経験から、行く先々で「ご復活の主はすでに行かれており、被災された人の傍らに寄り添っておられる」と証言し、私たちが指針とするイメージを、マーガレット・F・パワーズさんの詩「Footprints あしあと」であると提示しました。

暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。

どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、私は、砂の上のあしあとに目を留めた。

そこには一つのあしあとしかなかった。私の人生でいちばんつらく、悲しいときだった。このことがいつも私の心を乱していたので、私はその悩みについて主に尋ねた。

「主よ、私があなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において、私と共に歩み、私と語り合ってくださいと約束されました。それなのに、私の人生のいちばんつらいとき、一人のあしあとしかなかったのです。いちばんあなたを必要としたときに、あなたが、なぜ私を捨てられたのか、

私には分りません」
主は、ささやかれた。

「私の大切な子よ、私は、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みのとき、あしあとがひとつだったとき、私はあなたを背負って歩いていた」

打ちのめされ、言葉もなくし意気消沈し、被災された人を、主が自らおんぶしてくださっておられる、その姿を私は何人の方に見たでしょうか。私との方が出会い、手を握ることを主が望みになられていると悟りました。

「さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あなたの方は、あなたがたより先にガラヤヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」(マルコによる福音書16章7節)

そのように、石巻で、南三陸町で、名取市閑上で、新地町という日本のガラヤヤで、私たちはご復活の主にお目にかかれたのです。ほんとうに、み言葉は生きて語りかけるのです。

家族を失った漁協長の復活

私たち「いっしょに歩こう! プロジェクト」は、石巻市旧北上町の十三浜に關わることになりました。日本福音ルーテル教会被災者支援「となりびと」との協働が縁でした。「困っている方がいるので行ってあげてください」と声がかかりました。ここで、大阪教区出身の岸本望執事(北関東教区)が貴重な体験をされることになりました。私たちは元漁協長の佐藤清吾さんに出会いました。清吾さんは妻と可愛い2人のお孫さんを津波で亡くしました。彼は3カ月間、まったく何もする気になれませんでした。岸本執事は「何かほしいものはありますか?」と、機会あるごとに清吾さんの仮設住宅に通いました。3カ月が過ぎて変化が起きました。「皆さんにこんなにしてもらって申し訳ない」「いつまでもよくよしていたらいかん」「亡くなった者たちのためにも頑張つて生きなければだめだ!」
こうして清吾さんは、死んでいたのに、立ち上がりまし

た。これこそ復活でなくてな
んでしよう。それからは笑顔
の清吾さんになり、再び漁協
長となり、1年間、漁師さん
たちが協同で残った船を使い
合って仕事をしました。これ
は復活です。主が立ち上がり
せてくださいました。

み言葉の響きに

耳を澄ませよう

東日本大震災は「いまだか
つてなかつたほどの大地震で
あった」(ヨハネの黙示録16
章18節)ですが、宣教協議
会のバイブルシェアリングで、
東京教区の笹森田鶴司祭が示
されたこの世界のビジョンは、

「神が人と共に住み、人は神
の民となる。神は自ら人と共
にいて、その神となり、彼ら
の目の涙をことごとくぬぐい
取ってください」(ヨハネの
黙示録21章3〜4節)のです。
神は清吾さんの目からことご
とく涙をぬぐい取ってください
しました

「たとえ、わずかであろう
と、少人数であろうと、神の
国はパン種のように広がり行
く、このことを信じなさい」。
イエス様はそうにいつも

私たちに語りかけ、支えて下
さろうとしておられます。「ど
こまでも私を信じなさいよ」
と、その言葉を響かせ続け
ておられます。この響きは、
やがて十字架の上からも発せ
られ、今も同様に発し続けら
れているのです。私たちはそ
れのお言葉の響きを常に心の
中に、魂に聞いていようにし
たいものです。耳を澄まして
聴くことは、すなわち一つの
祈りです。

私にはこれまでずっと私を
支えてきたイエス様のお言葉
があります。聖パウロはたび
たび言うのですが、たとえば
「フレモンへの手紙」で、「祈
りの度に、あなたのことを思
い起こして、いつも私の神に
感謝しています」と、「あな
たのために祈っているよ」と
元気づけられています。

イエス様は十字架につけら
れていくその直前にあって、
離反してしまう一番弟子のペ
トロに対して、こう言われま
した。「シモン、シモン、サ
タンはあなたがたを、小麦の
ようにふるいにかけることを
神に願って聞き入れられた。
しかし、わたしはあなたのだ

めに、信仰が無くならないよ
うに祈った。だから、あなた
は立ち直ったら、兄弟たちを
力づけてやりなさい」(ルカ
による福音書22章31〜32節)。
事故やケガ、病氣、災難や
苦難がなく暮らせた人の一生
に、私たちはお目にかかった
ことはありません。誰にとっ
ても避けて通れない道があり
ます。イエス様はそのことを
大前提にしながらも、「私・
イエスが支えてやるからな、
そばにいるぞ」と、はつきり
宣言してくださっています。

「しかし、私はあなたのため
に、信仰が無くならないよ
うに祈った」、「私・イエスは
あなたのために祈った」、そ
う断言しておられます。イエ
ス様は私のため、あなたのため
に既に祈っておられるので
す。

これほどのお恵みがあるで
しょうか。これほどの力があ
るでしょうか。私たちにとっ
てこれ以上に大きな愛がある
でしょうか。
弱い私はウイリアムス神学
館時代から、このイエス様の
お言葉が私を何とか保たせる
絶対的な言葉でした。今回の

東日本大震災で出会った多く
の被災された人たちに会って
も、真実に響く生きた言葉で
した。イエス様のみ言葉は永
遠に不滅です。「天地は滅び
るが、わたしの言葉は決して
滅びない」(マタイによる福
音書24章35節)。

イエス様との

「指切りげんまん」

被災地を歩き始めた時から
私の中に、聖書のみ言葉、イ
エス様のみ言葉が次から次へ
と語りかけてきました。「こ
の聖書の言葉は、今日、あな
たがたが耳にしたとき、実現
した」(ルカによる福音書4
章21節)。その通りです。そ
うして、ついに父なる神に執
り成してくださいるイエス様は、
勇気百倍のお約束、究極の「指
切りげんまん」をくださいま
した。

「あなたがたがわたしにつ
ながっており、わたしの言葉
があなたがたの内にいつもあ
るならば、望むものを何でも
願いなさい。そうすればかな
えられる」(ヨハネによる福
音書15章7節)。
夢の実現が夢で終らないた

めに、私たちがイエス様の伸
ばしてくださいる小指に私の小
指を絡ませて「指切りげんま
ん」をすることです。これは
私と神との絆です。この絆は、
次に隣人との間で形成される
ようにと促されています。
隣人とは隣の人ではなくて、
目の前の人のことです。被災
された方々と、私たちの「い
っしょに歩こう!プロジェクト」
のスタッフ、ボランティア
アたちは、支援物資を運び、
語り合い、泣き、笑してい
るうちに絆となっていました。
このことは、普段の教会の働
きそのものであると気付かさ
れました。私たちの隣人たち
と、み言葉を分かち合い、祈
り合い、主に願い求めて生き
ること、これが私の現時点で
確信をもって皆さまにお伝え
できることです。

「編集部からのお断り」

長谷川清純司祭様の説教を
紙面の状況のため別刷りとし、
原稿の一部を割愛、また加筆
いたしました。以上につき長
谷川司祭様から許可をいただ
き感謝いたします。